

大学行政管理学会「会員意識調査 2023」の分析報告について

第 14 期組織委員会
委員長 本 田 勝 浩

1. 調査の背景・目的

本学会の会員数は 1,142 名（2023 年 7 月 1 日現在）と近年は漸減傾向にあり、研究会・研究グループ活動の活性化、会員の活動支援、組織基盤の強化・安定化などの課題も多く、今後の学会運営の在り方が問われている。会員に対する意識調査は 2008 年に一度行われたが、その調査と比較検証を行い、今後の学会運営の在り方を検討することを目的に、組織委員会が中心となって会員意識調査を行った。

2. 調査概要

調 査 名： 大学行政管理学会「会員意識調査 2023」
調査方法： google フォームによるインターネット調査
調査機関： 2023 年 7 月 10 日（月）～7 月 28 日（金）
調査対象： 全会員 1,144 名
回 答 数： 288 件 回答率 約 25.2% 【参考】前回 348 件 回答率 約 3 割

3. 調査結果の概要

5 段階評価の多くの設問において、2008 年実施の調査では「4」の回答にヤマがあったのに対し、今回調査では「3」となっている。今回の調査の回答は、前回より全体的にネガティブに振れている。

定期総会・研究集会、地区別研究会、テーマ別研究会などにおいては、新型コロナウイルス感染拡大に伴いオンライン、もしくはハイブリットでの活動となったことが、回答においても大きな影響を与えている。

4. 調査結果の詳細

<A> 属性

① 入会年

1997 年の設立年から 2023 年まで幅広く回答を得た。特に 2016 年以降の入会者についてはコンスタントに二桁以上の回答があった。

② 所属先

私立大学の所属が 246 件、回答占有率 85.4%と最も高かったが、前回実施では私立大学占有率が 91.5%となっており若干下がっている。これは単純に国公立大学の所属会員が増えていくのではなく、エルダー会員や賛助会員などの増加によるものである。

③ 職位

管理職回答率 52.8%（前回 57.%）、一般職回答率 33%（前回 36.8%）と前回と大きな変化はない。

④ 所属地区

	北海道	東北	北関東・信越	関東	中部・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2008	4.2%	4.0%	1.0%	37.6%	13.0%	23.0%	6.6%	10.3%
2023	3.8%	3.8%	3.4%	37.5%	6.9%	28.4%	6.9%	6.6%

前回との対比では、関東と近畿は会員も多く調査の回答も前回と同様に多くあったが、中部・北陸地区と九州・沖縄地区の減少の幅が多少大きくなったように見受けられる。

⑤ 年齢

ボリュームゾーンは40～49歳の世代は前回と変わらないものの、50～59歳、60歳以上の世代からの回答数が増加している。

⑥ 性別

女性比率は前回12.7%から今回13.9%と若干増加している。

 学会の活動全体について

① 学会活動について

学会活動の満足度について、前回の平均値は3.64、最も多い回答は「4」であったのに対し、今回の平均値は3.46、最も多い回答は「3」と後退している。

自由記述欄では、肯定的な意見として、「研究会活動は充実している」「様々な情報・交流の機会を得ることができる」「各研究会が活発に活動している」などがあつた。反面、否定的な意見としては、「研究団体、職能団体として、立ち位置が不透明で、どちらの水準も不十分」「職員としてはためになるが、会員としてのメリットが少ない」「扱うテーマがマンネリ化傾向である」などがあつた。

② 年会費について

年会費の妥当性については、適切が206/288とかなり多く、「やや安い」「安い」を含めると94.1%となる。

自由記述欄の否定的な意見としては、「地区研究会等など会員でなくても参加できるためメリットを感じない」「活動者が固定的になっているため、会費納入に見合う対価がやや希薄になっているように感じる」「非会員との差が分かりづらい」などがあつた。

③ 会費負担について

前回は、全額自己負担59.0%、部分補助9.7%、全額補助29.4%であったが、今回は全額自己負担68.8%、部分補助5.9%、全額補助25.3%と帰属機関からの援助が減り、会員負担が多くなっている。

④ あなたはこの学会への入会を他の人へ薦めたいか

前回の回答の平均値3.89から今回3.69と下がったが、前回は「4.やや薦めたい」が210、「3.どちらともいえない」が95であったの対し、今回は「4.やや薦めたい」が106、「3.どちらともいえない」が105と「3.どちらともいえない」がかなり多くなった。

自由記述欄では、「有益な情報や知見を得られる」「人的ネットワークの構築に繋がる」「大学内業務で学べないものがある」などの肯定的な意見もあったが、「意欲のある職員には良いが、受け身の状態の職員に勧めても良い結果とならない」などの意見も複数あつた。

<C> 総会・研究集会について

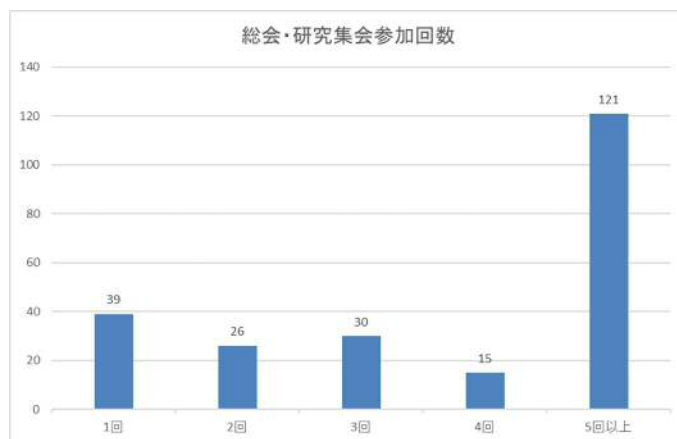
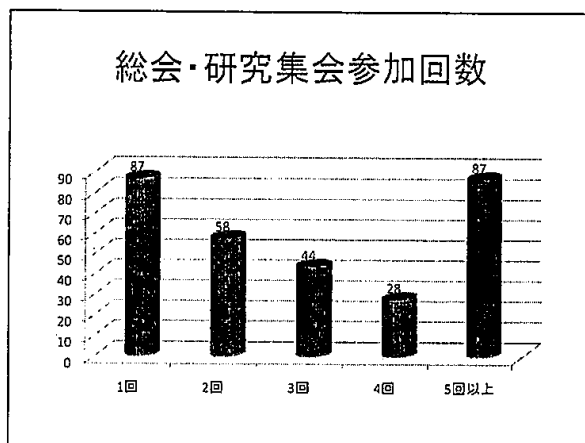
① 総会・研究集会への参加について

総会・研究集会の参加経験は、前回80%、今回も80%と同比率であった。

② 参加したことがない理由について

前回は「本務の都合」が12.6%と最も高かったが、今回は「開催日程が合わない」が9.4%、次いで「居住時地域の都合」が7.3%と高く、オンラインやハイブリット開催による参加形態の変化の影響が見られる。

③ 参加した人の回数について



前回は1回と5回以上の参加が最も多かったが、今回は回数も重ねたこともあり5回以上の参加が圧倒的に多かった。

④ 参加した感想について

前回の参加した満足度は3.95であったのに対し、今回は3.78と若干後退している。自由記述欄では、肯定的な意見として、「1年に1回程度会員が集まれる時間を作ることは相互理解のためにも大切な時間である」「学会全体が一番大きな交流の場として機能している」「多くの内容を聞くことが出来、多くの職員の方と接点を持てる貴重な機会である」などがあった。反面、否定的な意見としては、「コンテンツの充実度合が年々低くなっているように感じる」「内容に偏りがある」「一部のメンバーで盛り上がっている印象。発表者も同じ顔触れ。討論ものをもっと増やしてほしい」などがあった。

⑤ 研究発表者の選定について

「審査した方が良い」は前回36.5%に対し今回25%と減少している。「誰でも発表できるようにした方が良い」は前回と今回ともに28%と変化はなかった。

⑥ 総会・研究集会への参加を他の人へ薦めたいか

前回の回答の平均値は3.99、今回の回答の平均値は3.78と後退しており、「4」の回答が減り「3」の回答が増えていることによる。

⑦ 総会・研究集会において1～2年にうちに研究発表をする希望があるか

前回「希望する」の回答は20.9%であったが、今回は18%と若干減少している。

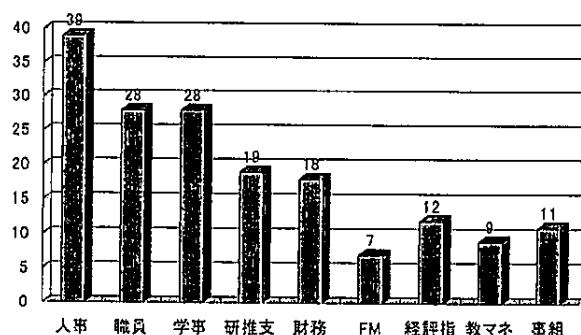
⑧ 総会・研究集会の開催の全般的な意見について

自由記述のコメントでは、「オンラインと対面のハイブリット形式を継続して欲しい」という意見が多くあった。また、「オンデマンドスタイルにして、ストックしていつでもどこでも閲覧できるようにして欲しい」という意見も複数あった。

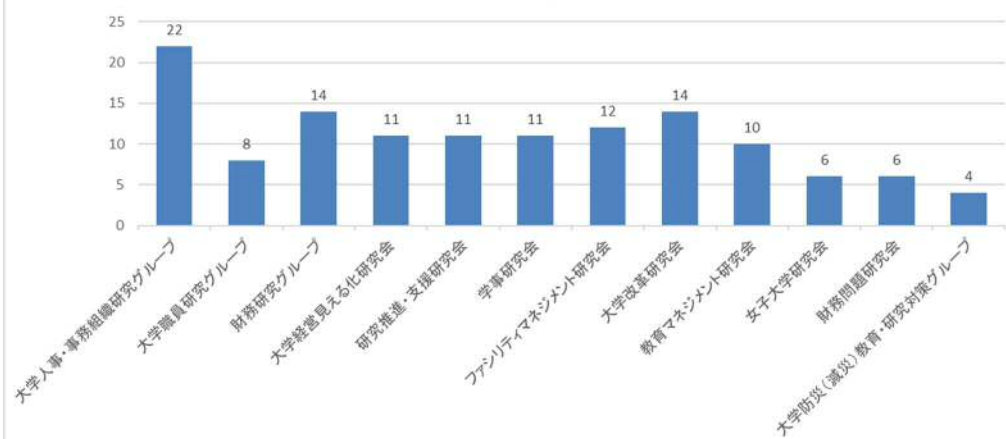
<D> テーマ別研究会について

① テーマ別研究会に所属しているか

テーマ別研究会の所属(なし259)



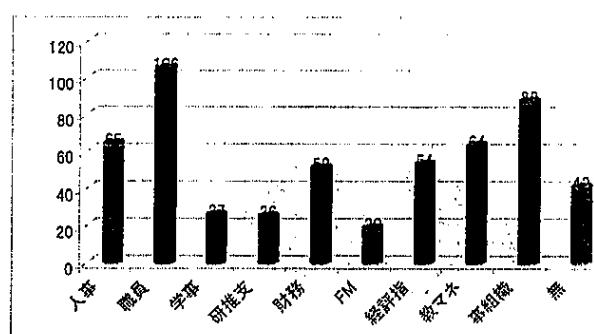
テーマ別研究会の所属(未加入203)

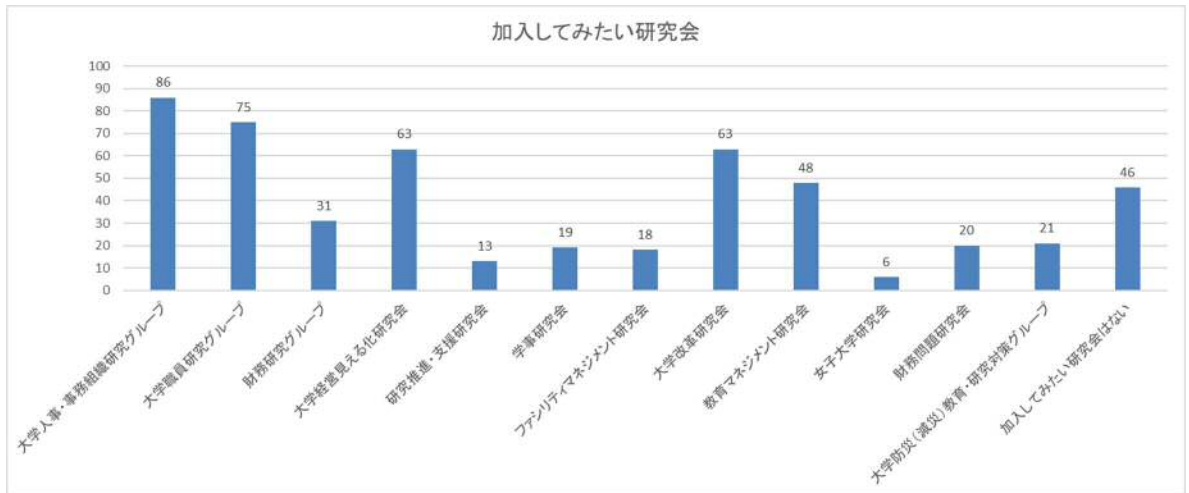


テーマ別研究会の所属については、前回同様に大学人事・事務組織研究グループが多かったが、研究会の変遷により満遍なく所属しているように見受けられる。未加入者は若干減少している。

② 未加入の方で加入したい研究会があるか

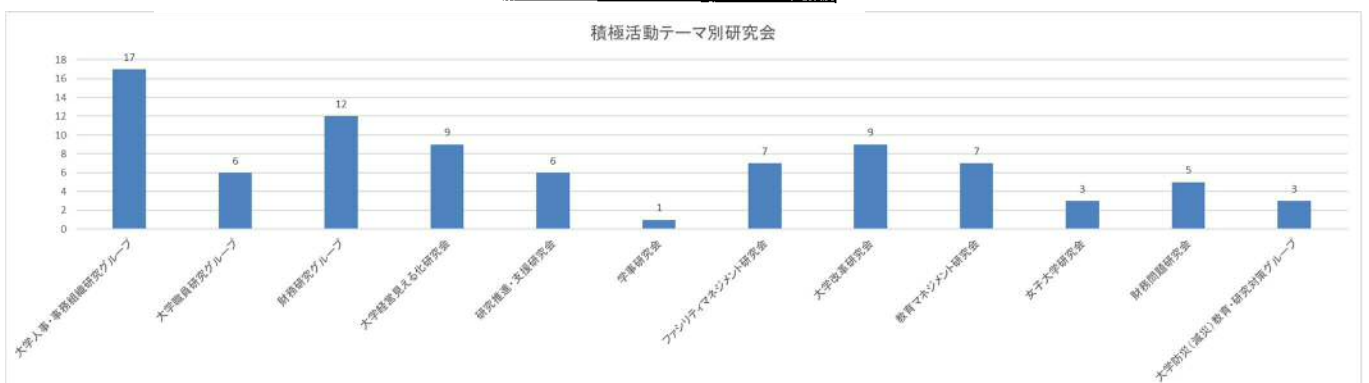
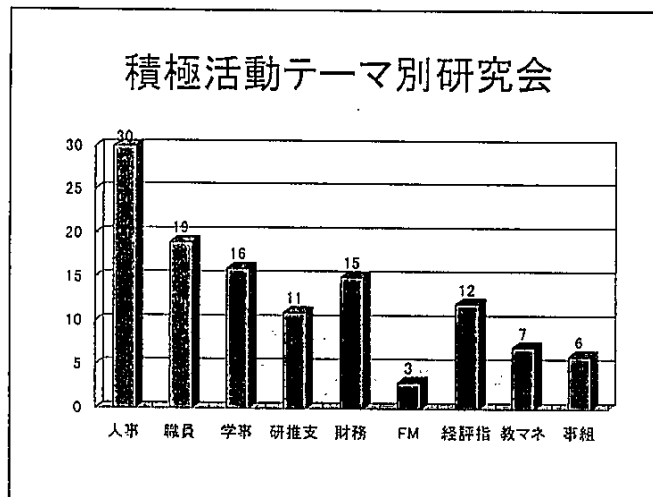
未加入者テーマ別希望(259件)





上記の図の通り、加入希望の研究会は分散しているように感じる。

- ③ 「加入したい研究会はない」と回答された方で設置されれば良いと思う研究会・テーマは自由記述のコメントでは、「大学評価・IR」「キャリア支援・教育」「国際交流」「働き方」「学生支援」「リスク管理」「ダイバーシティ」「学生募集・広報」「横断的な研究会」など幅広く意見が寄せられた。
- ④ テーマ別研究会に加入している方でもっとも積極的に活動している研究会は



上記の図に見られるように、研究会の変遷によって前回からの変化が見受けられる。

- ⑤ 積極的に活動している研究会の満足度について
前回の 4.10 に対し今回 3.82 と後退しており、特に今回「3」の回答の多さが際立っていた。

- ⑥ 積極的に参加している研究会を他の人に薦めたいか
前回の 3.99 に対し今回 3.72 と後退している。
- ⑦ 既存の研究会以外に設置されればよいと思う研究会は
自由記述のコメントでは、「国際交流」「キャリア支援・教育」「情報システム」「女子学生支援」「中退対策」「高大連携」「エンロールメント・マネジメント」「内部監査」「教職課程」など幅広く意見が寄せられた。

<E> 地区別研究会について

- ① 地区別研究会の参加回数について
前回は「5 回以上の参加」が 32.3%、「参加なし」が 32.0%に対し、今回は「5 回以上の参加」が 35.0%と向上し、「参加なし」が 26.4%と減少している。
自由記述のコメントでは、「ある程度近い大学とコンタクトできるため、似たような課題を共有しやすい」「地区ごとにいろいろなテーマが設定されていて、研究会自体も興味深いものが多い」「地区別研究会も世話人・運営が疲弊しつつある。共同実施やテーマ別研究会とのコラボ企画などで参加者を増やし、運営経験者を増やす必要がある」などがあった。
- ② 参加したことがない人の理由について
前回、今回ともに「開催日程が合わない」が多い。
- ③ 参加した方の満足度について
前回は 3.87、今回は 3.53 と後退している。
- ④ 地区別研究会を他の人に薦めたいか
前回は 3.93、今回は 3.70 と後退している。
- ⑤ 今後、地区別研究会で取り上げてほしいテーマは
自由記述のコメントでは、「地域の特性に合わせたテーマ」「都市部で成功した体験や事例を地方にも展開しやすいような事例発表」「テーマ別研究会とコラボ企画」などがあった。
- ⑥ 地区別研究会への要望について
自由記述のコメントでは、「オンライン・ハイブリットで実施して欲しい」「単発での案内が来るので計画型立てにくく参加しづらい」「地区別研究会の概要、活動内容をより分かりやすく説明していくことが必要」「会員数が少なく運営が厳しい地区をどう支えるかが課題」などがあった。

<F> 学会誌について

- ① 学会誌をどの程度読んでいるか
「ほぼ全編読んでいる」が前回 10.6%だったのに対し、今回 22.8%と大幅に向上している。ほぼ全編から半分まで読んでいる比率は前回 61.7%だったのに対し今回 66.8%と向上している。但し、「あまり読んでいない」は前回 33.3%、今回 37.0%と増えており 2 極化の傾向がうかがえる。
自由記述のコメントでは「オンラインデータの配布」「オープンアクセス」などの意見が複数あった。
- ② 学会誌の年間発行回数について
前回、今回ともに「適切」が圧倒的に多くなっている。
- ③ 学会誌の総ページ数について
前回、今回ともに「適切」が圧倒的に多くなっている。
- ④ 学会誌の掲載論文等の文字数について

前回、今回との「適切」が圧倒的に多くなっている。

⑤ 学会誌の掲載論文等の質の総合評価について

前は 3.26、今回は 3.24 とあまり変わらない結果となった。

⑥ 学会誌の掲載論文等の内容の満足度について

前は 3.48、今回は 3.26 と若干後退しており今回「4」の回答が大幅に減少している。

⑦ 学会誌へ投稿していない方の今後の投稿希望について

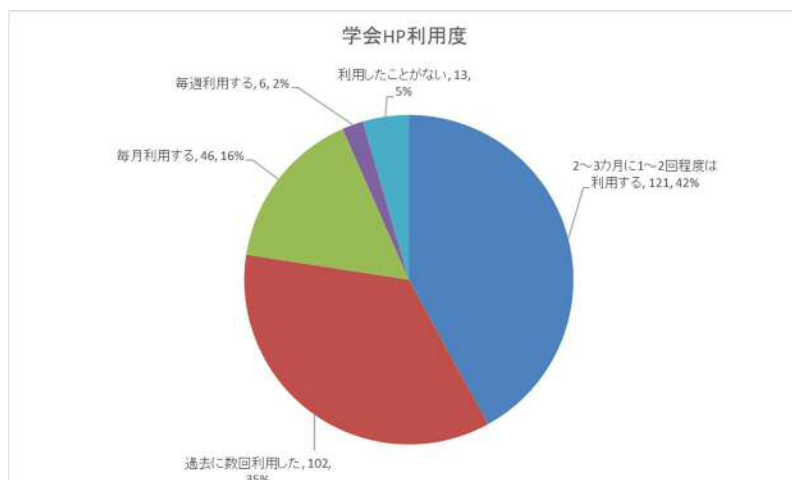
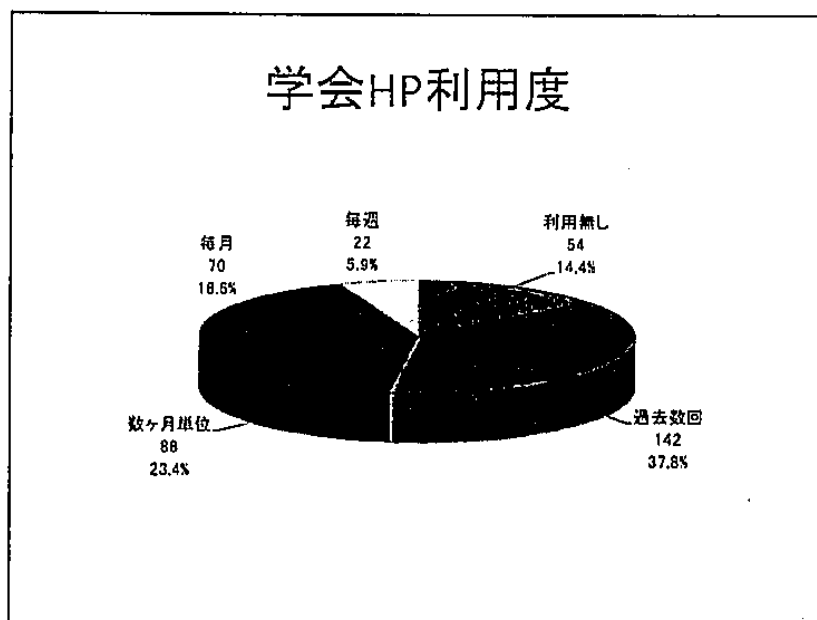
前回「希望する」が 5.2%、今回は 9.4%と大幅に向上している。

⑧ 学会誌への在り方に関する意見について

自由記述のコメントでは、「オープンアクセス」「オープンソース」「電子リポジトリの活用」など、利便性、印刷費・送料の削減の観点から多数の意見があった。また、「JUAM にとっても学会誌の必要性」や「学会誌の質、内容」について批判的な意見も散見された。

<G> 学会ホームページについて

① 学会ホームページの利用（閲覧）について



上記の図のように、明らかに HP の利用頻度は向上している。

② 閲覧された人の満足度について

前回の 3.33 に対して今回は 3.19 と若干後退しており、特に「4」の回答の減少が著しい。

③ 学会ホームページの在り方に関する意見について

自由記述のコメントでは、「スマホ対応にして欲しい」「テーマ別チャットルームのような気軽に課員同士でコミュニケーションがとれる場があると良い」「会員専用ページが使いやすい」などの要望意見があった。

<H> その他のニーズについて

① 学会事務局の会員支援体制に関する意見について

自由記述のコメントでは、事務局（市ヶ谷オフィス）に対して多くの謝意が述べられていた。要望面として、「将来的には Slack などオンラインツールを活用して気軽に意見交換ができるようになると良い」「手軽にスレッド等で聞くことができる機能というかサービスがあると良い」「発表資料等のデータベース化」「必要に応じて、RPA の導入、生成系 AI の活用など、業務の効率化の必要」などがあった。また、課題意識として、「会員を増やすことも大切であるが、学会を運営する側の人材育成や制度改正も喫緊の課題ではないか」という意見もあった。

② 大学行政管理学会の活動に対する意見・要望について

自由記述のコメントでは、「不活発なテーマ別研究会については、常務理事会が積極的に関与してはどうか」「役員のメンバーや各研究会の中心メンバーが固定的になっている感があり、「仲間内」での活動に見え、新たな風が入りにくい体制になっているように見える」「総じて個々の活動の総体、という状態になっているように見える」「新しい（若い）世代への交代・継承が課題かと思います」「いつの時代も、「学びと励ましのネットワーク」を標榜する学会で会ってほしい」などがあった。

5. おわりに（所感）

今回の調査を通して、性別、所属機関別、地域別でははく、世代間で学会活動への期待感や満足度に違いがあると感じた。特にネガティブな反応は、若手それも入会年数の短い方から多くあったように思える。これは調査する以前からの本学会における課題であるが、若年層が積極的に関われ活躍の出来る場をもっと増やさなければならない。さらに、今後の学会活動においては、オンライン・ハイブリット開催は必須であろうし、オンデマインドでのコンテンツの配信、オープンアクセスでの利用など、会員の利便性の向上を図らなければならないであろう。

この報告では定点観測という点で、前回との比較検証を中心に行ったが、自由記述欄に大変多くの、それも建設的な意見が寄せられた。これらを今後の学会の諸活動に是非活かしていただきたい。

最後になりましたが、回答をいただいた会員皆さまに感謝を申し上げます。

【添付資料】

- (1) 会員意識調査 2023（調査項目）
- (2) 会員意識調査 2023 回答（データ編）
- (3) 会員意識調査 2023 回答（自由記述編）
- (4) 2008 年実施調査回答（データ編）